

# 全国で不服審査請求

## 生活保護引き下げ

岡山県 230人

### お金心配で眠れない

8月1日からの生活保護基準額引き下げに「異議あり」と、その撤回を求めて、岡山県内の230人が20日、同県に不服審査請求をしました。

岡山県生活と健康を守る会連合会と「生活保護基準引き下げにNO! 全国訴訟ネットワーク岡山」が呼びかけました。安倍内閣は保護費を3年間で世帯平均6.5%、最大10%引き下げようとしています。県庁につめかけた利用者たちは請求書を提出し「私たちの実態を



県に審査請求書を提出する生健会の代表=20日、岡山県庁

国に伝えて、減額をやめてください」と、意見陳述しました。意見陳述をした倉敷

市の女性(33)は、2009年に派遣切りで失業し、職を求めてもどこどこ断られ、体調をくずして病気で働けなくなり、生活保護を受けています。8月から2030円減額され

ました。「このスパーにいくと安いものが買えるか、半額の物が買えるか、いつも考えていて、月末になると、お金の心配で眠れなくなり、それなのに、なぜ引き下げるのか」と語りました。

5年間に同県では非正規労働者の割合が6%増え、全国の伸び率2.7%を大きく上回っていることなどを挙げ「稼働年齢層の保護世帯の増加は、雇用破壊の原因だとよく分かる」と訴えました。

対応した県障害福祉課の中村謙治総括副参事は「憲法に基づいてしかるべき対応をします」と答えました。

喜恵事務局長は、今回の引き下げは、生活保護法や憲法25条に反している指摘。「きょうの行動は国民として正当な行為。泣き寝入りせずに歴史的審査請求に取り組み、政府の社会保障攻撃をはね返す世論づくりをしよう」と訴えました。

審査請求書を提出した荒川公雄さん(50)は「さいたま市」は病気で十分に働くことができず、生活保護を受けています。集会で、荒川さんは「収入は毎月請求の集団申請を行いました。」

この日の提出は札幌市を中心とした38世帯で、旭川市など道内各地の申請を含めると71世帯の審査請求が行われました。これで北海道での審査請求件数は1360となりまし

つし「生活保護の基準引き下げは命にかかわることだ。みなさんと連帯してがんばりたい」と述べました。参加者は、提出後、浦和駅前で宣伝・署名行動に取り組みました。

### 泣き寝入りせず行動

埼玉県 135世帯

埼玉県生活と健康を守る会連合会(埼玉県)は20日、生活保護基準引き下げに対する135世帯の不服審査

請求書を県に集団提出しました。提出に先立ち開かれた集会には、約60人が参加。埼玉県の高藤登

審査請求書を提出する人たち=20日、さいたま市

生活保護費削減の撤回を求めて北海道の「生活保護制度を良くする会」は20日、札幌市で2回目の不服審査請求の集団申請を行いました。

提出集会では北海道の目標である1千世帯を大きく超える審査請求となったことについて、各地の取り組みが報告されました。

2633世帯が審査請求書を提出した札幌市北区生活と健康を守る会では、「私たちが声を上げていいんですね」と元気になる受給者がたくさんいました」と話しました。

北海道生活と健康を守る会連合会の三浦誠一会長は「当事者が前面に立って街頭で審査請求参加の呼びかけを訴えながら審査請求を手渡しました。」



審査請求を手渡す人たち=20日、札幌市

てくる通行人がいるかと思ったり、「自分も審査請求に参加したい」という人が次々と近づいてきました」と話しました。参加者らは会場に来た道の担当者「きりぎりで生活している実情を知ってほしい」と訴えながら審査請求を手渡しました。